



春野中だより

〈教育理念〉 自他共愛
〈学校教育目標〉・明るく・豊かに・たくましく

令和5年度 第10号
令和6年2月1日(木)発行
さいたま市立春野中学校
〒337-0002 見沼区春野 2-2-1
TEL 682-3951 FAX 682-3952

「能登半島大地震をとおして」

校長 永谷 和俊

まだまだ寒い日が続いていますが、日の出・日の入の時間に日の伸びを感じたり、菜の花や梅の開花を見かけたりすることで、春の訪れを感じるようになりました。

1月は、サッカー部や女子卓球部の表彰を行いました。他の部活でも冬季大会でよいところまで勝ち進み、シードを得ていることも聞いています。また、理科研究発表会では、2年生の齋藤寛生くんが市内で2校しかいけない県大出場を見事に果たしました。春野中の文武両面での様々な活躍が続いております。

そして、1月22日からは、私立高校の入学試験が始まりました。その後、進路が決定した生徒は、校長室へ報告に来てくれています。ともに合格を喜びとともに、高校生活が充実するようにと願うばかりです。



さて、1月1日16時10分に能登半島で震度6強の地震が発生し、現在も被害全体の状況が見えていません。この地震で亡くなられた方々にお悔やみを申し上げるとともに、負傷や避難、被害にあわれた方々に心よりお見舞い申し上げます。

この地震ですが、私も新潟県妙高市で震度5強を被災していました。家族や仲間とスキー場から宿舎に戻ろうと車を運転している時でした。緊急地震速報が鳴り、車を停車させたその瞬間、車が踊るように大きく揺れました。東日本大震災を超えるような揺れでした。建物の中の人たちが一斉に外へ避難し、異様な雰囲気になっていました。宿舎の軒が落ち、ここに人がいたら大変でした。乾燥室ではスキーの板はすべて倒れ、花瓶なども割れていました。幸い停電はしばらくして復旧し、その後は特に不自由なく過ごせましたが、数分ごとに地震が続いてとても不安な一晩となりました。

地震後に最初に困ったのが、地震の情報が少ないことです。ロビーにテレビはありませんが、Wi-Fiは止まり、ネット状況も不安定です。情報がないということが不安でした。次の心配は春野中学校です。施設も心配ですし、市内で震度5弱以上発生時に、春野中に避難所が開設されるため、施設管理者として戻らなくてはならないところでした。

その後、ネット環境も安定し、状況が分かってきました。被災状況がたくさん投稿されている動画投稿サイト(YouTube)も情報源です。発生後すぐなのに、わずかな時間で数万回も再生されていました。どのメディアよりも一般人の投稿が状況を早く伝えていることや、報道なら伝えないだろう刺激的な映像にとっても驚きました。また、関連動画では残酷な動画も目に入り、衝撃的な動画内容と、これを中学生が見るのかと思うと気分が悪くなり、心が痛みました。

翌日、皇居の一般参賀の中止を知りました。「当然だ」と思いました。箱根駅伝がスタートし、「こんな時にやるんだ」と思いました。地震に遭遇したからの感想です。

そして、後に知るのですが、相手の気持ちに共感しすぎて、自分自身が体験していなくても精神的に疲れてしまう現象を「共感疲労」と言うそうです。大人よりも子どもの方が強く感じやすいそうです。私もこの「共感疲労」になっていると思います。

元自衛隊の芸人やすこさんが、「今の災害に私たちができることはなんですか?」というコメントに「日常を送れる方はいつも通り日常を楽しむことですかね…! あとは募金とかでしょうか…」と語り、「自家用車で支援をしに行くと道路が混み、緊急車両の邪魔で助かる命も助からなくなるので、今皆がいる場所で精一杯日常を生きるのが大切かも」と続いていました。これを見て、少し気持ちが楽になりました。

春野中学校では、生徒が中心となって、能登半島大地震の募金を行う準備を進めています。ぜひ、協力していきたいと思っています。

改めて、家族での被災時の打ち合わせや非常用の備えなど、多くの反省をしました。しかし、未だに改善していない自分があります。東日本大震災や新型コロナなど、あれだけ苦しい思いや対応をしてきたのに、日常生活に戻ると忘れてしまいます。このたよりを出したことをきっかけに、改めて地震に対する備えや対応マニュアル等を見直そうと思います。